

災害ボランティア活動報告(No.44)

今回は、バス参加15名、車での参加1名の総勢16名です。当日キャンセル2名。

定員40名以上のバスで15名というのは、正直厳しいですね。夏休みなのにこの状況です。

今までと募集の仕方は変わっていないので、震災から4年半が経ち関心が少なくなった事。8月と言えば、私もそうなのですが介護保険の負担割合が後期高齢者の場合、1割負担が2割負担になったことが有ります。子育て世代の4～50代、唯でさえ生活が大変なのに親の介護で余裕がなくなったのではと思います。

親の介護でヘルパーさんに来て頂いている方や、デイサービスを利用されている方は分かりますが、消費税が5%から8%に上がったときより、家計の負担が増えています。デイサービスで月5万の利用料の場合、その約半分が介護保険の対象の費用なので、単純に月2万5千円負担増になります。

無知な新聞記者が、猛暑なのに消費が増えないと記事に書いていましたが、当たり前のことです。超高齢化社会で介護を受けている高齢者、介護保険制度における要介護者又は要支援者と認定された人5,457,000人(平成24年度)、うち後期高齢者で4,771,000人(平成24年度)、子育て世代、親を面倒見ている世代は大変です。

ですので、今後の募集は厳しいと判断しました。小さな団体ではボラバスを運営するのには限界があります。

メンバーの中には、ロコミで人を誘うべきだと言う方もいます。私の立場からすると、ノルマのようになるのはボランティアではないように思います。唯でさえメンバーのスタッフの方達は、参加費を払った上に手伝いもやってくれています。その上参加者の募集などお願いできるはずもありません。

ですので、10月の収穫祭はメンバーの車を出し、斎藤さんの所に手伝いに行きます。参加されたい方はご連絡下さい。

あと、バス会社と年契していますので12月はバスを出します。12月25日(金)・26日(土)開催予定です。最終のボラバスになりますので皆様奮ってご参加下さい。

定期運行は、これで終わりますが、被災地からの要望や寄付・補助金など余裕が出来ましたらバスを出せば良いなと思っております。

活動場所:宮城県亶理郡山元町作田山(被災農家:斎藤様の農地)パブリカのビニールハウス

活動内容:今回は全員で、パブリカのビニールハウスでのリング外し。パブリカの幹を倒れないように網に固定するためのプラスチック製のリングを取り除きます。そしてハウス内の清掃。16名でしたが皆さん一生懸命働いて下さり、目覚ましい働き具合で時間内に総て終了できました。少数精鋭です。有り難うございました。

参加者:メンバー（木下史典、森本次郎、広瀬義積、溝手文子、本田 健）、一般参加、ネット参加のバス15名。車での参加（榎戸孝行）1名、合計16名。



※集合写真：今回参加して下さった皆さんです。（作業現場にて斎藤さんご夫妻と。）

活動報告:『親子で震災ボランティア体験』in 宮城県山元町、ボランティアバス第21弾です。被災農家斎藤さんにご縁がありお伺いしてから、今回で17回目です。8月21日（金）夜～8月22日（土）夜まで。車中一泊の弾丸ボランティアです。



※左の写真がパプリカのビニールハウスでのリング外し。右の写真：沢山外せました。今回、総勢16人と少なかったのですが、一生懸命働いて下さり、時間内に終わらせることが出来ました。



※前ページ左写真：皆さんのお陰様でパプリカのビニールハウスが総て綺麗になりました。
右写真：いつものように、お手伝い頂いた方に昼食時斎藤さんがスイカとメロンを振る舞ってくれました。



※写真：休憩中トマトとスイカの差し入れ、トマトは果物のように甘く。スイカは皮が黄色の東京には売っていない種類の物でした、とても甘く美味しかったです。これもボランティアの賜ですね。



※最後にパプリカと米ナスを皆さんにおみやげに頂きました。斎藤さん、いつもいつも気を遣わせて申し訳ありません。そして有り難うございます。

※被災地の避難生活者数 202,433 人です。(7月16日現在。復興庁調べ。) 瓦礫も片づき箱物も整備されてきましたが、被災者の方々の生活再建はまだまだです。私たちもメンバーでこれからもお手伝いを続けようと思います。応援宜しく願いいたします。 以上